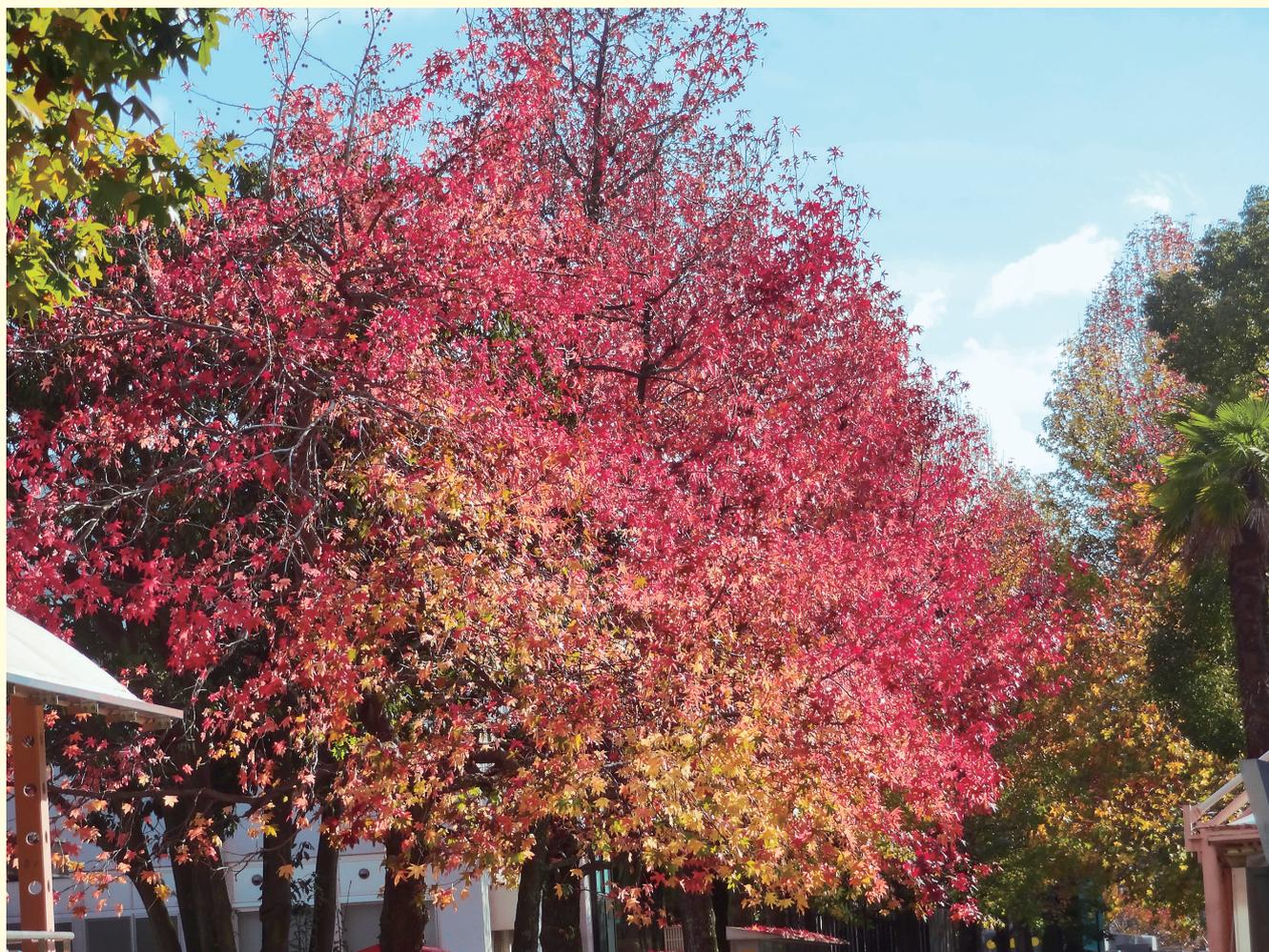


愛媛大学教育学部

第126号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-9395

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



古今雑談

愛媛大学教育学部



高橋 治郎

同窓会会長

今年五月の半ばまで、例年とは大きく異なり、日替わりで暑かったり寒かったりするので、年寄りの私は着るものに戸惑っています。同窓会会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今年二〇一八年は二年に一回開催されています同窓会懇親会のある年です。そして、来年二〇一九年は、愛媛大学開学七十周年を迎えます。二〇二〇年は東京オリンピックが開催されます。前回の東京オリンピックは、一九六四（昭和三十九年）年に開催されていますが、つい先日のように思い出されます。もつとも、新潟地震や新幹線の開通、前日まで大雨だったのにオリンピック開会式の十月十日は奇跡的に快晴……、こうした流れで鮮明に覚えています。おま

けに翌年の高校入試「美術」に「五輪に正しい色を塗れ」という問題が出題され、いやでも東京オリンピックは忘れられないものになっています。

この東京オリンピックの聖火ランナーとして走った先輩が複数名いて、色々お話を伺っているところや、色々面白いエピソードがあったようです。聖火は、愛媛県において南予から中予、松山から国道三十三号で高知へと運ばれたので、残念ながら私の住んでいた東予は通らなかったのですが……。

こうした古い話をしていますと、オープンリールのテープレコーダーがオリンピック直後に発売されて、おまけとして「現れては消え、現れては消えたオリンピックがここ東京で……」と開会式の実況が録音されたテープが付いていたことやポータブル蓄音機でソノシートに録音された開会式の放送を聞いた記憶があるなど、次から次へ話は尽きません。「蓄音機でドーナツ盤のレコード聴いてなかった？」「オリンピックのすぐ後にビートルズが日本に来たよね」等々。

こんな話ばかりではありません。「今でこそパソコンで文章は簡単に書けるけど、ワープロの出始めは漢字変換が思うように出来ず……、また、文字もドット数の関係で見栄えが悪かった」、「でも、その前の和文タイプは文字を一つ一つ拾って……、今思うとあれは大変だった」、「しかし、ガリ版印刷はもつと大変だったなあ。これが当たり前と想っていたけど」、「鉄筆で一文字一文字書いて、間違ったら修正液を塗り、この塗ったピンク色の修正液に息を吹きかけ少し早く乾かそうと……、鉄筆に力が入りすぎると穴が空くし……、早く仕上げて印刷しなければと思うと気が急ぐし」、「その後、鉄筆の代わりにボールペンで書けるようになったし、輪転機で印刷できるようになったよね」、「おかげで、インクで手や服を汚すことがなくなるし、楽になった」、「いつ頃からガリ版印刷がなくなつたのかな？」、「昭和五十年頃かな」、「その頃だったかな」、「ところで、今、教育実習生に私らの時代と同じように教案（指導案）をガリ刷りで提出せよというところなるだろう」、「それは出来はしない。ガリ版という言葉ももうないで無理」、「こちらの話も尽きません。（ちなみにガリ版のガリは鉄筆で原稿を切る音に由来するそうで、正しくは「騰写版」というそうです）

家庭訪問に行くときビールを出してくれる親御さんがおり、一軒目で頂くと次の家庭で断るわけにもゆかず……、生徒が、今日の家庭訪問はうちで終わりで、明日になったと伝えに走っていったら、「私の所も家庭訪問の時にお酒の好きな先生にはビールを出していいよ。それが普通でしたよ」、「野外実習の折、昼休みや生徒が作業をしているとき、親御さんがビールの差し入れをしてくれ、それを飲んで指導をした」、「買ってきたり頂いたビールや酒を五時以降呑みながら教育談義をしたものよ。クルマなんか誰一人として持つていなかったんだから。今、クルマ通勤でない教員が何人いる？」、「よう街中に連れ立って呑みに出た」、「シヨンペンタンゴティ、本当の名前はちよつと違うんだが……」、「とにかく、お酒が他者との潤滑油になっていた時代があったのです。私は、今も潤滑油だと思っております……。その上、百葉の長！

さて、取り留めのないことを書いてきましたが、これは来る八月二十五日（土）に開催されます第十六回同窓会懇親会へのお誘いなのです。同窓生の皆様に参加して頂き、先輩から後輩へ、後輩から先輩へ、伝えたいことや尋ねたいこと、近況等々を話し合います。懐かしい友や恩師、先輩、後輩と美酒を交わしながら楽しい時間を過ごしましょう。ご参加を心よりお待ちしております。

表紙
「学内紅葉」…………… 教育学部同窓会
題字 元愛大教育学部教授 菊川 國夫
「古今雑談」…………… (1)
教育学部同窓会会長 高橋 治郎
心 響…………… (2)
「アクティブ・ラーニング（行動的・能動的学習）で生き生きとした学習活動を」 菅田 顕
学部最近のニュース…………… (3)
・木の楽器「コカリナ」を教育の場へ 平松 夕佳
・国際交流プログラム合同説明会
・附属小学校に新しい仲間がやってきました！
・教育学部留學生歓迎会を開催しました。
・今治教育委員会及び上島町教育委員会と連携協力事業の調印を行いました。
原稿募集…………… (7)
学部部今 I ……………… (9)
・環境整備室「愛クリーン」の取組
・花でリフレッシュ！
・道路拡張工事開始
・表紙及び裏表紙の作品
「モジバフワの紅葉」（写真）
職場だより…………… (11)
「校長であり、父であり」
四国中央市・南小教諭 石川 翔宇

「アクティブ・ラーニング (行動的・能動的学習)」で 生き生きとした学習活動を

菅田 顕

(昭三四卒)

指導者は、日々の学習活動に於いて、子ども達が確りとした学習目標をもち、瞳を輝かせながら生き生きと学習に取り組む姿をイメージする時、子ども達を愛おしく思い、教育に携わる喜び、情熱が湧き起こってくる。

以前、愛大附属中学校の「総合的な学習」指導に五年間ほど携わったことがあった。この教材は新しく取り入れられた教育課程であり、指導用の教科書などは皆無の状態であり取り組むことになっていった。

附属中学校では、「総合的な学習」に対して、それを三年間のロングスパンの構想の基に、「地球市民講座」という大テーマを設定し、三年間の学習を通して二十世紀に生きる為のグローバルな資質、能力を確りと身に付けていくことを目標としていた。

そこで一年生は「地球環境問題」について、二年生は「戦争と平和」について、三年生は「人権」についてと、実にガッチリとしたカリキュラムが構築されていた。

私は、一年間の指導のうち、前期に二年生を、後期に三年生を指導した。

「総合的な学習」はまさに、各教科を総合した学習活動であり、そこには教科書、指導書等は勿論ないところでの指導であるため、指導に当たって大いに悩んだ。

そこで、「総合的な学習」の特性をフルに生かすことを考えた。ロングスパンの指導から見えてくることは、生涯学習的な観点での指導の発想であった。それは、学習を通して「学び方を学ばせる」ことであった。



心響

その指導に必要な資料として、
一 「レポート・調査書作成までの手順」

二 「集団討議のしかた」
三 「生き生きとした話し合いをするために」

の三つを作成準備した。
当時の附属中の「総合的な学習」の特徴は、大きな学習テーマの下に、生徒自らが自らの学習テーマ

を設定し、そのテーマに基づいて必要資料を収集整理しまとめ、レポート化し発表する学習システムを取っていた。そこで要求されるのは、いかに生徒が主体的、主体的に継続した学習活動に取り組むかに懸かっていた。

そのため、指導に当たっては、指導者自身がそのための確りとした指導システムを構築し、身に付けておく必要があった。そこで、上記一「レポート・調査書作成までの手順」を作成し、文章化した。その手順・ステップは、

- ① 気づき ↓ ② 考え ↓ ③ 決め ↓
 - ④ 集め ↓ ⑤ まとめ ↓ ⑥ よみとり ↓ ⑦ あらわす ↓ ⑧ 生かす
- の手順を踏みながら指導をしていた。その内①④のステップにおいては、アクティブ・ラーニングの活用が大きな位置を占めてくる。そのため、先ず、生徒自らの考えを確り持つことが要求される。それを深化発展させるために、上記の二、三の出番となってくる。

それは、生徒一人ひとりを個性的な存在であると同時に社会的な存在であると捉え、他との関わりの中に生かされられる自主協働性を持つ存在と捉えることから、自主協働学習へと発展することを目指すことである。

①、②のテーマ設定のために、三の出番がある。そこにはブレインストーミングを駆使して、自分の発想を縦横に深化拡充してい

く。そこには、上記二に挙げた小集団活動での話し合いが生かされてくる。その話し合いの中で、自分の思い、考え、願い等を、それぞれ一つ一つ総てカードに書き込み、小集団の場に提示し、他の人のカードと共にブレインストーミング(討議の四原則)批判しないii自由奔放にiii結合と発展iv量を求む)で、柔軟に追加補足していくものを更にカードに書き込み、小集団の場(原則四人構成、場の設定、役割分担(司会、記録、発表者、連絡係)とその各仕事内容の明記、討論手法)においてKJ法(川喜田二郎法)(参加者全員が確認できる場の設定、各自のカードをその場に提示、ブレインストーミングにより、提示されたカードの共通部分の島作り、「加乗、減、除手法」による意思決定)活動で協働作業し、参加者各自が生かされられた調査研究テーマを確立していく。

まさしく、①⑧の学習ステップでは、生き生きとした小集団討議、学習がふんだんに入り、そこには自然とアクティブ・ラーニングによる、自主協働的な学習活動が生かされてくる。したがって、この「総合的な学習」を通して、アクティブ・ラーニングの学習を身に付けていくことになる。まさに「学び方を学ぶ」という能力が身に付いてくることであり、ひいては生涯学習の素地が身に付いてくることでもある。

「コーラスと私」	西条市・橋小教諭	森 悠里
「目指す教師像」	東温市・北吉井小教諭	寺岡 旺代
「好きこそ物の上手なれ」	内子町・五十崎小教諭	森口 朝子
「人・もの・こと」との出会い」	愛南町・家串小教諭	澤近 恭子
「十年前の自分、十年後の自分」	教育学部附属特別支援学校教諭	辰段久美子
先輩を偲ぶ	林傳次先生遺稿集「把翠」を繙く(十七)	無疵の贖物と疵ある本物
ある会話 結果か過程か	祝・叙勲	放送大学案内
ミュージアム案内	文芸	短歌「葉桜」
俳句「来し方つれづれ」	河野真知子	絵手紙「植物と共に」
田中 勝子	会員の声	「親鸞と英語」
吉原 宏文	「戦後の県下教育の動向に思う」	小野植元幸
同窓会支部長会報告	行事・決算報告	役員表
寄付者・会報送料送金者名	裏表紙	学部は今Ⅱ
26	27	27



木の楽器「コカリナ」を

教育の場へ

教育学部特音 二二期

平松 夕佳
(昭五九卒)

★「コカリナ」との出会いと今日

大学卒業直後に結婚し、四人の子育てと仕事を持っていたため音楽の道をあきらめていたが、紆余曲折の末、「コカリナ」という楽器に出会い、思っていた形とは少し違うが、小学校から目指していた「音楽の先生」をしている。大学時代の特音ではフルートを専攻しており、同じ管楽器でもあったため自信があったが、フルートとの演奏法の違いに四苦八苦し、学生時代に戻ったように練習に励んだ。コカリナはフルートと違い

- 吹けば誰でも音が出る。(大きな音が出るので防災笛に良いかもしれない)
- 九つの穴のリコーダーと違い、六つの穴をふさぐ組み合わせで音階を出すため、不器用な子どもすぐになじめる。



- オカリナを吹くほど息の圧がいらないため、小学生から高齢者まで楽しむことができる。
- いろいろな大きさのものがあり、それぞれ独特の「木の響き」がとても良い。

- 木の種類によっても音色が違い、また、一つ一つが手作りのため同じものではない。そのため、楽器により人の声が違うように音色が異なり、しかも練習するほどに自分の演奏する音色も変わってくる。
- 何十万円もかかる吹奏楽器よりも安価でソプラノからコントラバスまで購入できる。
- 小さな楽器なので、どこにでも持っていける。

- いろいろな木から造ることができるので、廃校になる公舎の廃材を使って卒業生が記念のコカリナにしたり、記念樹を使って造ったりすることができる。
- ここに挙げただけでも様々な利点と魅力があり、「この楽器で子どもの教育や地域おこし等、いろいろな事ができる」と考える。同時に、自分で自分の音に癒される不思議な楽器「コカリナ」にどんどん魅了され、大学時代に学んだフルート演奏法や音楽教育を活かしながら現在、愛媛県で最初の「特別非営利法人コカリナ協会公認講師」としてサークル指導や個人レッスン、そしてイベント、コンサート等での演奏活動をしている。

★コカリナについて

「コカリナ」とは、もともと「桜

の木でできたオカリナ」と呼ばれて東欧ハンガリーの露店で売られていた民族楽器で、一九九五年、黒坂黒太郎氏が日本の木工家と合奏できる精度の高い楽器として改良し、「小さい」と「木」をかけた「コカリナ」と命名されたのが始まりとなっている。つまりハンガリー生まれ日本育ちの新しい楽器である。長野オリンピックの際、オリンピック競技会場へ行くための道路建設により伐採されなければならなかった木で製作されたコカリナを、オリンピック会場でも子ども達が演奏したことから多くの人々に知られるようになった。今では長野・東京を中心に広く演奏され愛好家の輪を広げている。特に発祥の地、長野県山之内町では町おこしや教育にも使われている。また、二十一年間続く長野コカリナフェスティバルには全国のコカリナ愛好家が参加し、年追うごとに盛んになっている。

コカリナは人の声が違うように音程は同じでも音色に微妙な違いがあるため、コーラスで良いハーモニーができるように、合奏をすると体と心に響く素晴らしい音色となる。特に低音のC・GコントラバスやCバスの音色は倍音が心地良く響く。先月亡くなった父もコントラバスがお気に入り

で、入院中、「あのでっかいコカリナが聴きたいから病室にもつてきてくれ」と言い、「お腹に響くええ音やなー、気持ちええな……」と低音の響きを特に好み、私の演奏を楽しんでくれた。

★愛媛での活動

昨年の二〇一七年九月、「内子座で演奏しましょう」と全国の講師が集まる講師コンサートで呼びかけ、愛媛コカリナサークル木音（kanon）のメンバーとともに「愛媛コカリナ・フェスティバル in 内子」を開催した。企画の段階から内子座のセッティング等を観光振興課の方々にお手伝い願ひ、「内子手しごとの会」の行灯や屏風で舞台を飾り、内子町の皆様には会場の音響・照明、そして打ち



愛媛コカリナフェスティバル in 内子



演奏会写真

上げの催しでは町特産の和紙で創作した楽器演奏を披露してください等、全面的な協力をいただいた。また、鹿児島から長野まで全国各地、八十二名の参加の方々は「内子グリーンツーリズム協会」の宿に泊まり、コンサート後には「道の駅KARARI」での盛大な交流会等々、存分に楽しんでいただくことができ、盛況のうちに終わった。都合で参加できなかった方々から「来年もしますよね?」と聞かれながら……なかなかそこまでの馬力はなく、二年に一回のペースで開催したいと考えている。

その他常時、コカリナ協会や各地のイベントが多数あり、昨年は、協会主催の「カーネギーホール」でのコンサートへ日本から百四十名ほどの大合奏団の一員として愛媛から二名参加した。今年八月二日には「国立競技場の木のコカリナ」のコンサート」が東京芸術劇場コンサートホールで行われ、

愛媛から三人参加する予定だ。コカリナ協会の講師コンサートでは紀尾井ホール等、音楽家憧れの舞台に立ってコカリナの合奏を奏しめ、また地方の舞台に立てるのも楽しみの一つとなっている。(東京まで合同練習に通わないといけないのが地方在住者のネックだが……)

★子ども達の教育と自身の目標

コカリナ普及の活動を始めた当初、「連れの」HCAシニアボランティア先で海外の子ども達にコカリナで音楽教育を」と思っていたが、近隣の小学校へ体験講習会や演奏へ行き、昨今の日本の子ども事情が深刻だということを身近に感じ、「これは海外の事どころではない、身近な子ども達の方が先だ」と考えを改めた。私達の年代では少なかった母子・父子家庭の激増にもなつて教育支援家庭も激増している上、少子化で学校予算も少なくなり、音楽教育の予算も人数も確保できない小学校が増えている。お金も人数も必要な吹奏楽部の運営が無理なら、「コカリナ合奏部」であればコントラバス・コカリナ等、金額のかかる(最大十五万円程度)楽器を学校購入とし、小さな楽器は個人持ちであれば「合奏」を楽しみ、音楽教育の場を持つことができる。ま

た、その発表の場としてコカリナ・フェスティバル等が各地で開催されれば、現地の子ども達や全国の愛好家グループと交流することもできる。……と、私の夢とヴィジョンはドンドン膨らむ。

・愛媛県市町村で登録されている木を全部使ったコカリナで「愛媛の合奏」。

・二年度毎に「愛媛コカリナ・フェスティバル」を開催、「愛媛一〇〇人合奏団」を構成し「愛媛県」を全国にPR演奏する。

・子どもの少数化で低予算に悩む小中学校の音楽教育に「コカリナ合奏」を取り入れ、「合奏の楽しさ」を教える。

・ピアノの買えない子どもにも自分の楽器を持たせ「子どもが楽譜を読めて音楽に興味を持つ教育」に役立てたい。

・地域のおじいちゃん、おばあちゃんと子どもたちの合奏、など。

そして、演奏家としては、絵を観て『誰の絵』とわかるように、自分の世界を持ち演奏できる『演奏家』になりたい。

・師匠である黒坂先生のように『観客が感動して涙を流す』演奏ができるようになりたい。

★サークルについて

コカリナ協会の協力を得て送料

のみで体験コカリナの貸し出しをしていただき、木音(kanon)サークルメンバーとともに、ボランティアで二年前から小学校四、六年生対象コカリナ体験講習会と演奏を実施(一度に百人くらいまで可能)。松山市立素鷲小学校と坂本小学校、伊予市立南山崎小学校で今年も企画していただいている。また、愛媛県生涯学習「夢まつり」や松山市二の丸庭園などのイベントでも演奏や体験会を機会あるごとに実施している。

「愛媛一〇〇人合奏」目指して、協力者とメンバー絶賛募集中!



あいテレビYouTube番組 あい☆スタLIVE (MC:ハッピーコンビ/らくさぶろう氏) に出演しコカリナを説明

愛媛コカリナサークル木音
 ~ kanon ~
 連絡先:
 武田さん 090-4508-2022
 演奏と体験講習依頼連絡先:
 平松夕佳 090-1000-1574



今年6月2日イベント参加



素鷲小学校体験講習会

平成30年度国際交流プログラム説明会 が開かれました。



佐野教育学部長の挨拶

5月31日(木)に国際交流プログラム説明会が開かれました。この事業には教育学部同窓会も援助をしています。当日は佐野教育学部長の挨拶の後、昨年度実施した6大学との交流について各担当の先生たちから説明がありました。また、実際に参加した学生さんたちからも報告があり、感想を交えたこの事業のすばらしさを後輩たちに話してくれました。以下に各大学での交流の様子を載せておきます。

◆UWB研修

本研修ではワシントン大学やシアトル近郊の施設で、アメリカ社会における多様性に関する課題について専門家から学びます。また、現地の小学校では英語にて日本の小学校を紹介したり、高等学校では1日高校生体験や俳句ワークショップを行いました。各学生に一人ずつワシントン大学の学生が付き、研修や現地での生活を助けてくれたり、高校訪問ではバディの生徒が学生を支援してくれます。また、研修期間中はホストファミリーでお世話になるなど、豊かな学生交流の機会があることも本研修の魅力の一つです。研修が終わってから数カ月が経過しますが、学生はSNSを使いこれらの方々としっかりとつながっています。

◆ULM研修

本研修では、米国ルイジアナ州にある公立学校、ルイジアナ大学モンロー校（ULM）との連携の元、毎年2月の後半から3月の前半にかけて4名の教員志望学生がULMの学生寮に滞在しながら、周辺の学校を訪問し、英語で日本文化を紹介すると同時に、子ども達と交流する時間を持ちます。訪問する学校は、幼稚園から高校まで、参加学生の希望によって選ぶことができますし、大学の授業にも参加します。訪れた各学校でのプレゼンテーションを通して、参加者は教師に必要な本質的なコミュニケーションの力量を身に付けることができると同時に、温かい人々との交流を楽しむことができます。



ルイジアナ大学モンロー校（ULM）研修



ULM周辺の小学校での交流の一コマ

◆フィリピン研修

愛媛大学教育学部はフィリピン大学教育学部と学術交流協定を締結して10年になります。これまで215名の愛媛大学生が、フィリピン大学附属幼稚園、小学校、中学校、高校にて、理科、算数、社会科、家庭科、図画工作などの創造性溢れる授業実践を行ってきました。現地で2,400名程度の子どもたちに愛媛大学生が英語で授業を行ったこととなります。2014年には、「アジアで教える、アジアの子どもから学ぶー愛媛大学フィリピン教育実習プログラムー」として国連アカデミックインパクトで紹介されました。平成29年度からはスーパーグローバルハイスクール指定を受ける愛媛大学附属高校の生徒との合同研修もスタートしています。



フィリピン大学研修

◆順天郷大学

韓国、順天郷大学と長期（半年または1年間）交換留学の協定締結から8年が経ちました。この間、愛媛大学の学生を32名派遣し、17名の先方学生を受け入れています。留学に行く学生は、留学中は世界から順天郷大学に来る留学生と国際学生寮で生活します。様々な国からの留学生と英語でコミュニケーションを深めることで、まさに地球的な交流を体験することができます。一方、留学生を受け入れることで、愛媛大学の学生にとっては、身近な外国にルーツを持つ学生と共に学ぶことで、易しい日本語を使いながらお互いの文化の違いと共通性に気付くことができます。



順天郷大学留学

◆遼寧師範大学

遼寧師範大学は、愛媛大学にとって最も古い学術交流協定校で、今年で協定締結から32年目を迎えました。遼寧師範大学からは毎年1、2名の留学生を受け入れています。愛媛大学からも希望に応じて半年から1年未満の期間で留学生派遣を行っています。5年前から愛媛大学の学生・大学院生が遼寧師範大学を訪問する短期研修（遼寧研修）を毎年行っています。本研修は5日間と期間は短いです。双方の教員・学生によるシンポジウム、日本語授業の見学、大連・旅順に残る日中の歴史に関する史蹟訪問、学生交流などを行い、参加者からは充実した研修として、毎年高い評価を得ています。



遼寧師範大学研修

◆復旦大学

復旦大学は上海市に位置する中国の名門大学です。教育学部と高等教育研究所との研究交流協定は締結後22年の歳月が経ちました。今まで双方による教員の相互訪問が盛んに行われ、高等教育を含め教育全般に関して、講演会や研究会が催され、活発な研究交流をしてきました。また愛媛大学の学生による復旦大学の短期研修とフィールドワークも行われました。参加者が多い時は学部生と院生と合わせて26名に達しました。学生同士の交流は室内に限りません。上海の街に飛び出して、メインストリートの裏にある一般市民の居住地を訪れ、市民生活を垣間見ることができました。またグループ調査では自由市場などを調査したりしました。短期間ながらも濃密な現地研修ができました。



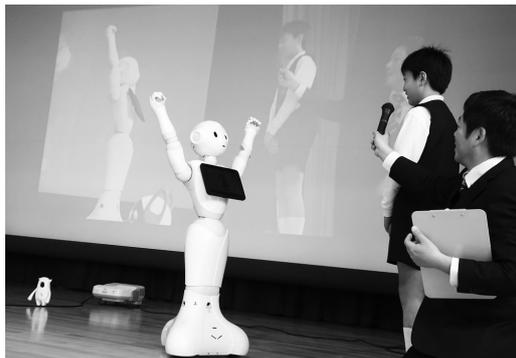
復旦大学研修

教育学部附属小学校に新しい仲間がやってきました！
【4月26日（木）】

4月26日(木)、附属小学校においてPepper（ペッパー）2基、aibo（アイボ）、CHiP（チップ）、Musio（ミュージオ）のお披露目を行いました。

附属小学校では、AIやスマートロボットと共生する将来に備え、未来を拓く子どもたちがその素地を身に付けることができるよう、「Pepper社会貢献プログラム」に参加し、人型ロボットPepperを2基導入しました。併せて、犬型ロボットのaiboとCHiP、そして英会話学習ロボットであるMusioそれぞれ1基についても、試験的に導入しました。

子どもたちは“新しい仲間”との出会いに目を輝かせていました。今後、これらのロボットとの関わりを通して、子どもたちが楽しみながら未来の社会を思い描き、将来の自分を考える機会を与え、子どもたちの創造力を育んでいきます。将来的には、ロボットを用いたプログラミング学習や外国語学習など、活用の場を広げていきます。



< 附属小学校 >

原稿募集

—次号 第百二十七号—

短くても結構です。多くの方々のお気軽なご寄稿をお待ちしております。

◇ 「会員の声」・「今、教育に思うこと」について、ふるってご投稿ください。

★ 同期会や支部同窓会などの集会や活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩・絵手紙等)について

★ 会員便り

1 旅行記 4 この頃思うこと
2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など

3 教育雑感

※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会でご選ばさせていただきます。

◇ 原稿メ切 十一月三十日
発行 二月一日 予定

★ 字数
依頼者以外は千二百字厳守

四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いてください。

★ 写真
筆者の顔写真を添付してください。顔写真以外で内容に関連した写真もあれば送ってください。

教育学部留学生歓迎会を開催しました【4月23日（月）】

平成30年4月23日(月)、教育学部本館2階会議室で、教育学部留学生歓迎会（前学期）を開催しました。教育学部では、今年度4月から新たに4人の留学生を迎え、現在6人の留学生が在籍しています。歓迎会には、留学生、教育学部長、指導教員、国際交流委員会委員、留学生チューター、事務職員などが一同に集いました。

国際交流委員会委員長の張 貴民教授の司会のもと、佐野 栄教育学部長の歓迎挨拶があり、乾杯でパーティが始まりました。その後、留学生が紹介され、それぞれ日本語で自己紹介を行いました。今回の歓迎会では、当日誕生日を迎えた留学生を参加者全員でお祝いするなど、終始、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。留学生の皆さんにとって、本学で過ごす留学生活が有意義なものになるよう願っています。



佐野栄教育学部長の歓迎挨拶



留学生の皆さん

教育学部が今治市教育委員会及び上島町教育委員会と 連携協力事業の調印を行いました 【4月25日（水）】

平成30年4月25日(水)、教育学部が今治市教育委員会の八木良二教育長と上島町教育委員会の濱田和保教育長を迎え、それぞれと平成30年度連携協力事業の調印を行いました。

教育学部はこれまで、愛媛県を始め、松山市、今治市、伊予市、松前町、東温市、愛南町、内子町、西条市の教育委員会とそれぞれ連携協力の覚書を交わし、その活動を通して、教育研究、教員研修、教員養成について多くの成果を挙げてきました。

今治市教育委員会とは、平成15年の覚書の調印以来、毎年覚書を交わし、継続的に共同研究を行い、その成果を『研究報告書』（愛媛大学教育学部・今治市教育研究所）の形でまとめています。

また、上島町教育委員会とは、今年度初めて覚書を交わし「確かな学びを保障するカリキュラムの開発と授業の創造」というテーマで研究を推進することとしています。

これら教育委員会との共同研究の目的は、「教育現場の諸問題の解決のために理論と実践の一体化による研究を推進するとともに教師の創意工夫を生かした授業を創造し、児童生徒に多様で確かな学力を身につけさせる」というものです。教育現場の具体に即した継続的な研究の成果が期待されます。



今治市教育委員会八木良二教育長（左）と
佐野栄教育学部長



上島町教育委員会濱田和保教育長（左）と
佐野栄教育学部長



学部 の 今 I

附属特別支援学校の卒業生が職員として大学内の清掃業務に従事しています。

愛媛大学という小さな共生社会 — 環境整備室「愛クリーン」の取組 —



「失礼します。環境整備室〇〇です。清掃に入らせていただきます。」元気の良い声が響き渡る。

一礼の後、講義室の学生机上のゴミを一つ一つきれいに掃き、机中に忘れ物がないか確認した後、机の二度拭き、黒板清掃へと移っていく。講義室によつては机が百五十近くあり、机清掃だけでもなかなか大変な労力であるが、スタッフは嫌そうな表情一つせず、黙々と清掃を続ける。その後、床のほうきがけ、床のモップがけを



行い、窓のさんを拭き上げ、窓締め・戸締まりをして一つの講義室が清掃終了となる。

スタッフは各自が一日に三〜四室を担当し、講義室清掃の合間には廊下、階段、玄関、ロビーなども受け持ち、額に汗して働いている。

愛クリーンが、平成二十一年四

月に愛媛大学に設立されて十年目となる。スタッフは、愛媛大学教育学部附属特別支援学校の卒業生・愛媛県立みなら特別支援学校の卒業生である。彼らは知的な面でハンディーキャップがあるが、「大学で働きたい」・「大学を美しくしたい」という気持ちでいっぱいである。

設立当初より、年々一〜二名採用されて本年度には十六名のスタッフで城北キャンパスで働くようになった。主な担当業務には前述の講義室・廊下・階段・ロビー等に加え、トイレ清掃も含まれている。スタッフの増員に合わせて担当する清掃場所も拡大し、大学本部・教育学部・法文学部・社会共創学部の一部・体育館、そして本年度から愛大ミューズの廊下・階段も守備範囲に入った。

日々の業務は彼らにとって決して楽なものではない。しかし、彼らは、一日一日の「働く生活」の連続から、「働くこととはどういうことなのか」「社会人としての在り方」などを一つ一つ学び、人として成長している。最近では採用八年目のスタッフから「毎日の掃除が楽しくなってきました」という声を聞くようになった。



礼儀正しく挨拶をし、自分の役割を果たそうと精一杯努力している姿は、キャンパスで青春を謳歌している学生たちにも多くの「学び」をもたらすと感じるこの頃である。キャンパスを巣立った学生たちが、この小さな共生社会での「見聞」・「体験」や「学び」を抱きながら各方面で活躍し、さらに大きな共生社会を生み出すことに繋がって欲しいと心から願っている。

花でリフレッシュ!

阿部 修一
(昭五二卒)

大学構内を散策すると様々な花を見ることが出来ます。名も知らないいろいろな小さな花が至る所に咲いています。以前は気にもとめなかった花ですが、歳をとるとそうしたひっそりと咲いている一輪の花に気をとられるようになってきました。「世界に一つだけの花」の歌詞にあるように一生懸命に咲いている花に何故かエールを送りたくなってくるのです。今まで花の世話をしなかった訳ではありません。自宅の小さな庭や教員時代に授業の中で花を育てたことはありますが、現在のように思いを込めて花を眺めたり、育てたりしたことはありません。最近では、業務に入る前に教育学部玄関前に並べてある花の世話をすることに楽しみを見出しています。教育学部の玄関前に置かれている花は附属特別支援学校園芸班の

生徒が授業で種から育てた花をプランターに植え替え、平成二十八年秋から年に数回飾ってくれています。生徒たちが丹精込めて育てた花ですから少しでも長く咲いて欲しいし、その花を見ることで学生さんや教職員がリフレッシュできる環境整備の一役になればと思っています。実際に毎朝何人かの学生さんや教職員の方から花を見て「いつもきれいにしてくれてありがとう」と感謝の言葉をいただいています。一番うれしいのは、教育学部の玄関前にある「えみかキッズ」のかわいい園児の言葉です。朝、保護者に連れられて



登園した際、園に入る前に玄関前のプランターの所に来て、「お花きれい！」「赤いお花大好き」とたどたどしい言葉で花や私に話しかけてくれるようになったことです。小さな園児の応援者！これからも一人でも多くの人に見てもらえるようにいろいろな花を植えたと思っています。



愛媛大学は平成二十四年四月にダイバシティ推進本部を設置し、職員の多様な個性や価値観を尊重し、職員が持てる能力を最大限に発揮することにより、愛媛大学の各組織及び本学の総合的ポテンシャルの向上に資することを目的に取り組んでいます。そんな思いも込めて教育学部の前の花はいろ

いろな種類の花をあえて植えるようにしています。それぞれの花がそれぞれの良さや美しさをだして咲いているのをぜひ見て欲しいと思うからです。附属特別支援学校の生徒との取り組みはまだ始めたばかりですが、少しずつ変わっていく教育学部の玄関を楽しみにご来校ください。彼らの思いを活か

し花の世話をすることは歳をとった私でも力を発揮できると思っています。「えみかキッズ」の可愛い応援者や学生さん、教職員に喜んでもらえるよう花での環境整備に貢献できればと思っています。再雇用の任用期間を終えた後、さて何を目標に残りの人生を過ごすかと考えていました。幸いにも教育学部同窓会のマネージメントという役割を与えていただきましたが、同様にこの教育学部玄関前の花の整備はこれからの私の大きな目標となっています。そんなことと思われる小さな取り組みですが、毎日することがあり、目的・目標がはっきりしている生活のすばらしさを実感している毎日です。

道路拡張工事が 始まりました。

以前から計画のあった愛媛大学と日赤病院の間の市道拡張工事が始まりました。工事に伴い会員の皆さんが慣れ親しんだ道路脇の大学風景が大きく変わります。工事は四期に分けて進められます。



工事着工前
(正門から)

一期は四月～六月中旬で踏切から正門までの区間
二期は六月下旬～九月末で正門からえみか入り口までの区間
三期は十月～十一月末で理学部正門から北側の川までの区間
四期は十二月～平成三十一年一月末でえみか入り口から北側の川までの区間となっています。

この間学生さん、教職員、来校者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、愛媛大学の新しい風景を楽しみにしてご協力のほどお願いします。



現在 (平成 30 年 6 月)

表紙作品について

「モミジバフウの紅葉」 (写真)

教育学部同窓会

今回の表紙写真に「この初夏に紅葉？」と違和感を感じた会員の方が多いかと思っています。大学の隠れた見所を知っていただきたくあえて載せました。この写真は大学構内メイプルプロムナードのモミジバフウ(アメリカバフウ)の紅葉の様子です。愛媛大学構内にはこのようにあまり知られていない人気の場所が多く存在しています。表紙は紅葉の様子ですが、裏表紙には同じメイプルプロムナード緑の木立風景を載せています。また、教育学部横にはタイサンボクの木立、正門からまっすぐに伸びるグリーンプロムナードには人工の水路、さらにその先のメディアセンター及び放送大学前にはグリーンロードと名付けた散歩・ジョギングのできる場所もあり多くの方が利用しています。会員の皆様、ぜひ一度母校を訪れ現在の愛媛大学を楽しんでいただければと思います。

十一月十日(土)のホームカミングデーの頃が見頃ですのでぜひご来校ください。

職場だより



校長であり、父であり

四国中央市

南小教諭

石川 翔宇

(平二八卒)



愛媛大学を卒業し、あつという間に月日は流れ、私の教員生活も今年で三年目を迎えました。この南小学校で過ごしてきたこれまでの二年間、振り返ると多くの先輩方に助けられ、支えられた二年間でした。中でも昨年度、ご退職された校長先生には本当に多くのごとを学ばせていただき、感謝しています。

初めてお会いしたのは、初任校が告げられ、ご挨拶に伺ったときです。あの時のことはよく覚えていますが、正直、お恥ずかしい話ですが、ネクタイが曲がったまま、校長先生に挨拶をしてしまい、「ネクタイが曲がつとるぞ。」とご指

「子どものことを一番に考える。」という自分の中の芯が定まったように思います。

二年目に入ると、六年生の担任と体育主任を任せられました。不安はありましたが、校長先生には「いろいろなことを経験して、成長してほしい。」という思いがあったのでした。とても嬉しかったです。いざ経験してみると、全校児童を動かすことにやりがいを感じたり、素直で優しい六年生と過ごす日々、居心地の良さを感じたりする反面、思うようにいかず苦しいこともありました。特に水泳特別練習は、どのような練習メニューが子どもたちの記録を伸ばせるのか、日々色々なことを試してみても上手くいかず……。そんな悩む自分に校長先生は「焼き鳥でも行くな。」と声を掛けてくださいました。お店では、親身になつて話を聞いてくださり、「好きなようにやってみな。」と再びこの言葉を掛けてくださりました。本当に苦しい時期でしたが、校長先生の言葉に心が軽くなり、なんとか乗り切ることができました。今でも反省点は多々あります

それからスタートした教員としての日々は、想像していたよりも大変で、分からないことの連続でした。日々の指導も上手くいかず、大量に配られる職員会資料の多さに何が何だか分からず混乱していました。ただ、自分が教員として初めて担任する子どもたちはとても可愛いくて愛おしくて、「子どもが大好き。」という気持ちだけでなんとか日々乗り切っていました。出来ていないことも多く、何度も謝ることばかりでしたが、校長先生は「子どもが好きという気持ちが一番大切。あとは好きなようにやりな。」といつも声を掛けてくださいました。この言葉にいつも励まされ、そしてこの一年で

が、子どもたちが本当によく練習を頑張る、記録会ではたくさん自己ベストが出たことは何事にも代えがたい嬉しさがありました。

校長先生と自分を含めた四人の先生で奈良の水平社博物館に行つたことも大切な思い出の一つです。きっかけは人権・同和教育訪問の焦点授業をすることになり、実際に現地に行つてみて、勉強をしたいという自分のわがままでしたが、そのことを話すと「ほな、行くな。」と快く一緒に行つてくださることになりました。移動中の車内は校長先生が父、自分は息子、二人の先生が母と姉のようであるで四人で家族旅行をしているようでした。勉強目的の旅行ではありませんでしたが、現地を見て回ったとき、四人で蕎麦を食べたりしたことは心から楽しいと思える時間でした。

から自分の教員生活は始まり、あの時は「しまった。」という気持ちでいっぱいでした。しかし、この時に締めていただいたときはただ嬉しく、何故か誇らしく思いました。そして校長先生は三十三年間の教員生活を終えられ、お別れなのだと思つと、寂しくてたまりませんでした。

この二年間、校長先生には本当に多くのことを学ばせていただき、心から感謝しています。同時に、出会えて本当に良かったと、校長先生の下でお仕事できて良かったと心から思います。そして自分を息子のように可愛がつてくれた校長先生は、もう一人の自分の大切な父でもあります。三年目を迎える今年、自分にも後輩ができて、先輩教員となりました。校長として、父として教わったことを胸に、新たに出会った先生方と、目の前の元氣いっぱいやんちゃな四年生と共に、今年もパワフルに走り抜きたい、そう思う今日の頃です。

担任する六年生を送り出す卒業式の朝には、再びネクタイを締めていただきました。あのと、「初めて挨拶に伺った頃のことを思い出します。」と言うと、校長先生は笑っておられました。最初にネクタイを締めていただいたことか

799-0123

四国中央市金田町

金川一四五番地

コーラスと私



森 悠里 (平二三卒)

西条市

橘小教諭

小学校の先生を目指すようになったのは、小学生の時でした。とにかく音楽の授業が楽しくて仕方がなかったことを覚えていま

す。さらに、担任の先生が勧めてくださった西条少年少女合唱団に入団し、他校の先生や仲間と関わるうちに、コーラスの良さにどんなはまっていきました。そして、いつか教師になったら、音楽の楽しさや面白さを伝えていきたいと思うようになりました。

講師として赴任したのは、今治市立清水小学校でした。音楽専科としての授業はもちろん、金管バンド部の指導、コーラス部の指導など、様々な経験をさせていただきました。コーラスは実際に私自身が受けてきた指導や、大学で教えていただいたことを思い出しながら指導しました。試行錯誤ながらも見通しを立てながら取り組みました。しかし、金管バンド部は

全くの初めて。自分も楽器が吹けないのに、指導なんてどうすれば……。途方に暮れていたところを同僚の先生方が親身になって助けてくださいました。今でも大切にしたい、先生方との出会いです。ありがたいことに、同じ学校で四年間勤めさせていただき、長期的な目線で子どもたちと関わる事ができました。

そして、新規採用として赴任したのは、西条市立西条小学校です。学校が決まったとき、「全国大会を目指している、コーラスの強い学校だね。またいい勉強ができるね。」と言っていたきました。担任という立場から専科の先生の指導法が見られる……ワクワクしながら赴任しました。

三年生の学級担任としてスタートし、校長先生から、「コーラス部の伴奏をやってみないか。」と声をかけていただきました。残念ながら、コンクールの日程が初任者研修と同日だったことなどが理由で、引き受けることはできませんでした。

十二月になる頃、「アンサンブルコンテストに出場するので、伴奏を弾いてもらえないでしょうか。」と、音楽主任の先生から打

診がありました。二つ返事で引き受けたものの、全国を目指す団体の伴奏が、決して上手いとはいえない私のピアノでいいのだろうかと不安になりました。しかし、楽しそうに練習している子どもたちを見てみると、気にするべきところはそこではないと気づきました。どれだけ子どもたちが歌いやすいように弾けるかに重点を置いて、練習するようになりました。

また、指揮者の先生の熱のこもった指導は、勉強になることばかりでした。リズム遊びや身体表現などを取り入れた練習は、今後取り組んでいきたいです。コンテストで出場するのは、一般の部です。小学生と大人のグループが競います。小学生には小学生の良さが、大人には大人の良さがあります

が、どのように審査されるのか、楽しみでした。結果は、出場した二グループとも金賞を受賞。一グループが全国大会への出場権を獲得しました。夏の大会で、涙をのんでいた六年生の嬉しそうな顔は忘れられません。福島県での全国大会は、教会のような反響の良いホールでした。のびのびとした子どもたちの歌声に、舞台上一緒に演奏しながら「なんて心地の良い

時間なのだろう。」と思いました。子どもたちと共に音楽を作る事ができたことに、感謝した瞬間でもありました。

二年目、一年生を担当しながら、コーラス部の伴奏を弾く夏がやってきました。毎日放課後になると、練習に参加します。土日の練習もあります。この時、私の頭を悩ませたのは、学級の仕事と練習参加、自分自身のピアノ練習と

いった時間の配分方法でした。練習に出てしまうので放課後の個別指導はほぼ出来ず、学年の仕事は練習が終わる頃には学年団の先生方が全て終わってくださっている事態にも陥り、どうしたら両立できるのかと悩む日々でした。しかし、「コーラス頑張ってるね。」と言ってくださる先生方と、クラス

の子どもたちに支えられて、ご迷惑をおかけしながらもなんとか務めることができました。この後、宮中雲子音楽祭、アンサンブルコンテストなど、気づけば一年間を通して伴奏をさせていただきました。目標に向かってひたむきに頑張る姿に、私も頑張ろうと思えました。次回引き受ける際には、今回得た課題を解決しつつ、取り組んでいきたいです。

今年度、橘小学校へ赴任し、音楽専科となりました。久しぶりに金管バンド部に関わり、またもや何人もの先生方に支えていただいで指導しています。講師と担任を経て、少しずつ落ち着いて物事に対処し、指導できるようになってきました。(恐らく……)たくさん先生の先生方と出会えたこと、支えていただいていることに感謝し、目標をもって何事にも取り組んでいきます。

☎ 793-0064 西条市西泉 (乙四一七番地)



2017/01/29

目指す教師像



東温市
北吉井小教諭
寺岡 旺代
(平一九卒)

昨年度から教員人生一年目がスタートしました。大学の四年間では、多くの実習に参加し、先生になる準備をしました。附属小学校の実習では、六年生のクラスで勉強させていただき、先を見通すことの大切さを学んだり、授業研では、教材研究や児童のことを理解することの大切さを学んだりしました。このように、大学では、実習のたびに多くのこと経験することができました。大学四回生では、教員採用試験に向けて、仲間達と一緒に、筆記試験や実技試験の勉強を毎日夜遅くまでしていました。採用試験に合格した時には、とても嬉しかったのを覚えてます。

そして春から、現在の勤務校で働くことになりました。講師経験もなく、なにかも分からない状態で始まった教員生活一年目。昨年一年間は、苦勞の連続でした。

始業式のあった第一週は、教員生活の忙しさに衝撃を受けました。先輩の先生方に聞いていた、覚悟しておくべき忙しさを実感しました。仕事の忙しさに打ちのめされたのも束の間、次は、クラスをうまくまとめられない辛さに直面しました。特に体育の授業では、走り回る子どもたちを目の前にして、クラスをまとめることに苦勞しました。人を叱った経験も無く、どんな時にどのように叱ればいいのかさえも分かりませんでした。初めての指導では、覚悟を決めて、どんな言葉で指導するのかを考えていきました。自分一人で、クラスをまとめる難しさを、授業以外にも、給食の時間や朝の時間など、様々な場面で痛感しました。「子どもにこんな風に成長してもらいたい」「こんな授業をしたい」そんな願いよりも先に、毎日を乗り切ることに精いっぱい、子どもに還元できることも少なく、自分の力不足に悔しさを感じることも多い日が続きました。

そんな大変な一年間でも、乗り越えることができたのは、周りの先生方の支えがあったからでした。毎日いくつもの質問をする私に、自分のお仕事もありながら丁寧に教えてくださる先生。「もう慣れ

た」や、「今日はもう帰れそう」といつも優しく話しかけてくださる先生。私が悩んでいると、一緒に考えてくださる先生。帰りが遅くなると、家まで送ってくださる先生。掲示が終わっていない教室を見て、一緒に掲示を手伝ってくださる先生。自分の仕事は終わっているのに、私に合わせて遅くまで一緒に仕事をしてくださる先生。そして、私が辛い時に、優しい言葉を掛けてくださった先生。

思い起こせば、私は、子どもの時から、たくさんの素敵な先生に出会ってきました。子どものころに出会った先生との出会いは、私が教師を目指すきっかけになりました。全力で私のことを応援してくれる、いつでも味方でいてくれて、たくさん時間を一緒に過ごしてくれた先生。自分の時間よりも私達と過ごす時間を大切に、愛情ある厳しさで私にたくさんのことを教えてくださった先生。大学時代には、「どんな時も主役は子ども。だから、何を語るにも主語は子ども」という、これから大切にしていきたいと思う、私にとって大切な言葉をくださった先生にも出会いました。子どものころから多くの、私の目標になるような先生に出会うことができたの



は、私の財産で、そんな先生のようになりたいと思っています。

今までの先生との出会いや、一年間と少しの教員人生の中で、私は、子どもの心よりどころであるような先生になりたいと思うようになりました。自分が辛い時、支えてくれた先生のようになりたいたいと思ったからです。そんな先生になるために、子どもの気持ちを大事にしたり、一緒に考えたり、見守ったり、話を聞いたりする中で、児童のことをしっかりと理解し、子どもに寄り添うことができようになりたいと思います。

昨年度担任をしていた四年生の子どもたちは、五年生になりました。委員会の仕事が始まり、学校のために一生懸命動いている姿

や、高学年となりお兄さんお姉さんになった姿を見て、頼もしく、そしてかわいらしく思います。今年度は、三年生の担任をすることになりました。今月の歌を歌うことを楽しみにしていたり、泣いている友達のことを慰めたり、新しく始まった教科に、目を輝かせて取り組んでいたりと、子どもの純粋さを感じ、毎日楽しく過ごしています。中学年になったばかりで、何に対しても積極的に取り組み、エネルギーのみなぎる子どもたちと過ごす時間は、とても楽しく、この子どものやる気や能力を十分に伸ばすことができるようにしたいという強い思いと責任を感じています。今、目の前にいる子どもたちとの生活は、この一年間だけです。一年が勝負のこの仕事で、今年度が終わる時、子どもたちが、「このクラスでよかった。」と思ってもらえるように全力で毎日頑張っていきたいです。そして、子どもたちに寄り添い、子どもたちにとつて心のよりどころとなることができるよう、私の理想の教師像をみざして、毎日子どもたちに向き合っていきます。

好きこそ物の上手なれ



内子町 五十崎小教諭 森口 朝子 (平一五卒)

「好きこそ物の上手なれ」。講師時代を含めて、教師という立場で数え切れないほどたくさんの子どもたちと関わる事ができた。笑顔があふれる、かけがえの無い宝物のように輝く日々を思い返してみても、最初に頭に浮かぶのはこの言葉だ。

愛媛大学を卒業して、あつという間に十五年が経った。その間に、実に様々な場所に行かせていただいた。初めて非常勤講師として働かせていただいたのは、西宇和郡にある高校である。そして、その後、大洲市の小学校で一年間、西宇和郡と八幡浜市の中学校で三年間、講師として働かせていただいた。そして、小学校で採用していただき、八年間が過ぎた。三つの校種で働かせていただき、幅広い年代の子どもたちと接することができた。それぞれに違った魅力があったが、どの学校でも感

じたことは、「好き」という気持ちをもつことのすばらしさである。

中学生の時から教員になるのが夢だった私は、愛媛大学で、学校教育教員養成課程に入学した。教科は、昔から大好きだった美術を専攻した。卒業制作では、自分が想像した世界を作品として表現し、様々な方に鑑賞していただく喜びを大いに感じる事ができた。「好き」という気持ちがあったからこそ、大変な作業でも乗り越えて頑張ることができた。そして、美術がさらに好きになり、様々な技術を身に付けることができた。大学在学中に実感した、この「好きこそ物の上手なれ」という言葉の意味を、たくさんの子どもの姿を見てさらに実感することになった。特に実感した二つのことを紹介させていただく。一つ目は、中学校の講師をさせていたいただいたときのことである。初めて赴任した中学校では、美術部はなかった。しかし、美術が好きで、放課後にもわざわざ質問にくるなど大変意欲的に作品作りをする子どもたちの姿がたくさん見られた。一つの作品に対して愛着をもち、細部にまでこだわって作品を

作り上げていく姿をそばで見ているだけで幸せな気持ちになった。そして、大変熱心に取り組んでいた子どもが、あるコンクールの中学生の部で日本一に輝いたときは、本当に驚き、心から感動したことを今でもよく覚えている。自分の好きなことを一生懸命頑張つて自信が付いたその子どもは、その後、教員を目指すという夢に向かって、頑張ることができていた。当たり前なことだが、ただ流されて何となくするよりも、「好き」という気持ちをもって全力で頑張るほうが、何十倍も力を発揮し、自分の限界を超えた力が出るのではないかとこのとき感じた。そして、二つ目は、ここ数年間の小学校での経験を通して感じたことである。小学校では、美術から図画工作へと名前を変えて、また、新たな世界が広がっていた。美術で作品に対して、「美しさ」を求めている私にとって、「図画工作での「大胆さ」や「子どもらしさ」というものを大切にしたい指導に対して、正直、最初は戸惑うものがあった。とにかく、まず、「好き」になつてもらいたいと思ひ、いろいろな材料を準備したり、子どもたちの特性に応じて課題を決めた

りと、自分なりに子どもたちが楽しめるためにどうしたらよいのかを模索してきた。そうして何年間か指導を続けるうちに、「もつと図画工作がしたい。」という声がたくさん聞こえてくるようになった。そして、そんな声が聞こえてくればくるほど、見ていて驚くほど想いの込められたすばらしい作品がたくさん仕上がっていた。どの学校でも、楽しんで制作することが、技術を向上させて、すばらしい作品を制作する上で欠かせないことだということを再確認し、何も戸惑うことはないと感じた。そして、自分に自信が付くことで、得意なことだけでなく苦手なことも諦めずに最後まで頑張る力も付き、他の教科や生活にまでよい影響を与えているのを目の当たりにして、「好き」という気持ちをもつことのすばらしさを実感した。これまでの経験から、私は、どの授業でも、まず、「好き」になることの大切さを伝えている。さらに、図画工作の授業では、今までの自分の作品を超えることをめあてに作品制作に臨んでもらっている。今では、「今までで一番の作品ができました。来年は、今の自分を超えたいです。」という

ような言葉が聞こえてくるようになった。図画工作に対する愛情あふれる言葉や向上心のある言葉を何度となく聞く度に、私は、「好きこそ物の上手なれ」という言葉を痛感している。子どもたちの「好き」という気持ちは本当にすごい力をもっていると感じる。図画工作に限らず、全ての子どもたちが自分の「好き」なことを見つけて、楽しみながら存分にその力を伸ばし、いろいろな分野への向上心へとつなげていってもらいたいと思う。そのためにも、子どもたちにいろいろな教科の魅力を伝え、「好き」と感じてもらうことができるように、日々、授業研究に努めていきたい。

795-0301 喜多郡内子町五十崎 甲一三九四番地



「人・もの・こと」 との出会い



愛南町

家串小教諭

澤近 恭子

(平二三卒)



教師という仕事の魅力の一つに

「出会い」の多さがあると思う。

私は、講師時代も含めてこれまでに計六校に勤めた。その場その場で、素敵な出会い、自分を変えてくれる出会いがたくさんあった。目を輝かせて学校生活を楽しむ子どもたち、その子どもたちを温かく支える保護者の方々、地域のよさを教えてくださる地域の方々、そして悩みを相談したり、行事の成功を一緒に分かち合ったりできる同僚。こんなにたくさんのお出合いを与えてもらえることを、私は本当に幸せだと思っている。さらに言うと、出会いとは、「人」だけではない。校区の特色、学校の特色によっては、自分が今まで興味を持っていなかったようなことにも出会うチャンスがある。そんな「出会い」にあふれた仕事がおもしろくて楽しくて、こうやって

十七年も続けることができた。

私は、昨年度から、町内の小規模校「家串小学校」に勤めている。由良半島という、宇和島市と愛南町の間にある細長い半島にある小学校だ。その細長い半島を縦に二つに分け、北半分が宇和島市、南半分が愛南町である。細長い校区だから、スクールバスで二十分ほどかけて登校している児童もいる。学校の前には海がある。学校の廊下に並ぶ窓からは、鯛やヒオウギ貝の養殖場、真珠養殖の作業場、ヒジキやヒロメの収穫に向かう船など海で働く人たちの姿を見ることが出来る。そんなのどかな環境の中、子どもたち二十四名は伸び伸びと学校生活を送っている。赴任して一番驚いたことは、全校児童の仲が大変よいことだ。年上の児童が年下の児童を気遣うのは当たり前。本校では、朝の会も給食も全校児童が集まって行っている。全校朝の会の中で「三分間サークル対話」というものを行っており、縦割り班に分かれ、班の中での輪番制でスピーチをする。そんな時、高学年の児童が低学年の児童に、「今日、何を話すか考えとる。だいじょうぶ。」と声をかけていたのだ。なんと優しい

子どもらうと感心した。しかし、優しいのはその子だけではない。みんながきょうだいのように互いに気遣い、声をかけ合う関係なのである。給食の時にも心温まる光景を目にする。給食が遅くなった低学年の児童に高学年の児童がずっと寄り添い「がんばれ。」と声をかけているのだ。高学年は昼休みだつて忙しい。それなのに、自分のことは後回しにしても、ずっと寄り添ってくれるのだ。また、遊びの時でも低学年の友達を誘いに行つて、したい遊びを聞き、それに付き合う。高学年は高学年なりにしたい遊びもあると思うのだが、ここでもやはり思いやりが優先される。こんな優しい子どもたちを見ていると、私自身も心が洗われる。叱るばかりではいけない。人の心を動かすのは、やはり優しさだと反省させられる。

小規模校は地域色も濃い。本校でも、地域に根ざした教育活動が日々行われている。そのため、教師も地域のよさと出会う機会が多い。つい先日、ヒジキの収穫体験を児童と一緒にさせていただいた。学校の前から漁船に乗り、一キロほど沖にあるヒジキの養殖場へ向かった。海面に浮かんだロープに、よく育つたヒジキがぎっしりと垂れ下がっている。そのヒジキをロープごと船の縁に引き上げ、かまでザックザックと刈っていく。子どもたちは慣れたものである。波に揺られ船が安定しない状況でも、両足でしっかりとふんばり作業をしている。海で育つた子どもたちは、こういうときは私の先生である。



月に一度の俳句集会にはそれぞれ選りすぐりの一句を持ち寄る。友達の俳句を鑑賞し合うことで、俳句作りの腕を磨いている。私も、本校に赴任してから俳句作りを始めた。「顔洗う猫のジंकスタ立雲」「オリオンに向かひて走る音速し」私の作った俳句である。まだまだ初心者だが、子どもたちのように新鮮な気持ちで世界を見ていきたいと思う。これまで全く興味もなかった世界と出会うさせてくれるのも、それぞれの学校が持つ特色である。素人だから教えられないという考えではなく、子どもたちと一緒に学び続ける教師でありたいと考えている。

小規模校二年目になり少し余裕も出てきたことで、今年度は本当に地域の「人・もの・こと」の魅力を感じながら日々過ごしている。教育公務員として、命じられた学校で精一杯勤めることを信念としてきた。その度に、いつも素敵な出会いに恵まれてきた。これからもどんな出会いがあるのか楽しみである。

☎ 798-3705

南宇和郡愛南町家串

一三三二二

十年前の自分、十年後の自分



辰段久美子 (平一〇卒)

松山市
愛媛大学教育学部附属
特別支援学校教諭

今年の冬が厳しかったその反動か、春の芽吹きは早く、離任式の頃には桜が満開になり、多くの先生方との別れの涙と共に花びらが散ったような気がしました。四月に迎えた始業式・入学式では、木々が緑の葉で一杯になっていました。生命力あふれる葉の成長をみて、生徒たちの様々なあふれる思いと重なる部分を感じ、自分の気持ちを引き締める必要性を感じ、緊張した春を迎えました。

欲と緊張感をもち、毎日を精一杯頑張っています。一方、教員生活初めての学級を持ち上がった私は、学級が進級したという自覚が足りないのか、はたまた緊張感が足りないのか、学級の学年を言い間違えることが続いて、生徒たちに指摘されては苦笑することも度々です。しかし時折、新緑を見て感じた緊張感を思い出しながら毎日楽しく教員生活を送っています。

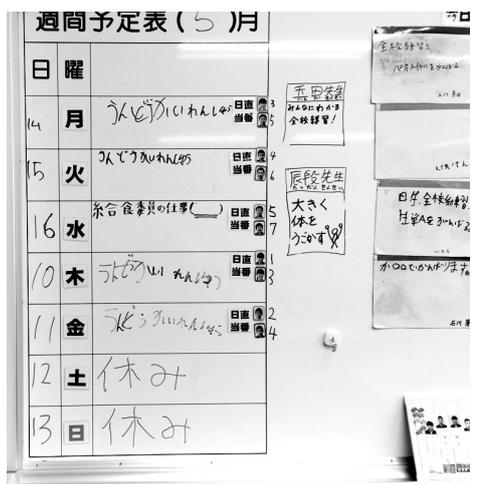
今でこそ、生徒たちの成長や授業作りを楽しめるようになりましたが、教員に成り立ての頃はそうではありませんでした。年間計画を立て、個々の実態に合わせた単元設定や教材教具作りは、夢でうなされるほど苦心しました。お風呂に入っている間に思い浮かんだアイデアを慌てて書き留めたり、先輩たちの技を学ぶために教室行脚をして、掲示物や教材について質問をしたり、先輩の先生たちの素晴らしいアイデアを真似したり助言をいただいたりしながら授業を作ったりしました。新採の頃に、先輩の先生に、どのようにしたら支援や授業のアイデアが浮かぶのか尋ねたことがあります。そのときに教わったことは、「何が必要か、どのような授業をしていけばよいのかは、子どもたちが教えてくれる。日々の関わりを楽しみなさい。」というものでした。その先輩の教えが理解できるところになったのは、教員になってから十年ほど経ったころからと感じています。

た十年経験者研修を行いました。その研修の講話で、十年後どのような教員になりたいのか、将来像を描きなさいと言われました。しっかりと将来像を持ち、その姿に向かって努力する必要性を感じていましたが、私自身の十年後の教員としての明確な姿を思い浮かべることはできていません。けれども、一つだけ描けていることは、私が先輩の先生方に教えていただいたことの一つである、子どもたちとの日々の関わりや、教材研究や授業作りを楽しむことを実践し、そういった中で生まれる高揚感や期待感、達成感などを私の後輩となる先生方に言葉だけでなく、日々の実践で示すことができたらいなと考えています。

でもたちの成長や笑顔を色々な人と共有しながら喜びがあったことが私の中で一番のやりがいであったと感じています。教員生活の後半は、今までの経験を生かしながら心に余裕を持ち、今まで以上に色々なことを楽しんでいきたいと思っています。

十年前の自分へ、今の自分がア
ドバイスするとしたら、一言
「大丈夫、頑張って進みなさい。」
十年後の自分へ、今の自分が望
むこととしたら、一言
「毎日を笑顔で楽しんで。」

伊予郡砥部町高尾田
791-2101
一四二二〇二二





先輩を偲ぶ

林傳次先生遺稿集 「把翠」を繙く（十七）

無疵の贗物と疵ある本物 ある会話 結果か過程か



無疵の贗物と疵ある本物

こゝに二つの骨董がある。一つは少しの疵もないが、要するに贗物である。模造品である。他の一つは本物に相違ないが疵がある。この二つを前にして世人はその何れを選ぶであらうか。

人間にもこの両者がありはしないだらうか。欠点はあるが本物だと思はれる人と、これといふ欠点はないが、何となしに本物でないと思はれる人と。しからば人間を本物と贗物とに判別するのは何によるか。これには色々の考へ方があるか否か、至誠であるか否か、純情であるか否か、本気であるか否かによりて分つのが妥当だと思はれる。

無疵の本物、これは滅多に出会

ひ得るものではあるまい。疵のある贗物、これは暫く論外におく。我々の周囲には、この無疵の贗物と、疵のある本物と、その何れが多いであらうか。また何れが世の中に容れられてゐるだらうか。いや、それよりも、何れが多かるべきであり、また何れが世に容れるべきであらうか。敢へてこゝに問題を提示して読者諸賢の一考を煩したい。

（昭和五年四月号）

ある会話

A「最近頻々として新聞紙を賑はしてゐる疑獄事件の続出はどうだ。鉄道疑獄、電気疑獄、売勲疑獄等々、次から次へと何時果てるのか判らぬぢやないか。一所懸命で人倫の大道を教壇で説いても、

かういふ様な出来事で片端から破壊されてゆくのだと思ふと、張合も何もなくなつてしまふ。」

B「さうぢやないよ。まだこんな事が平気で行はれる世の中だから一層力がいいる訳ではないか。次の時代を形成すべき青年男女をしてもつと明るい、そしてもつと正しい社会を作らねばやまぬ熱意を持たしめねばならぬのだ。『吾々の世になつたら……』共通した一つの理想は青年を燃え立たせなければならぬのだ。そう考へると勢、力がいらざるを得ぬではないか。」

これは二人の教育者の座談の一説である。

よく教育者は因循だ姑息だと評せられる。それは前者の様考へ方が多いからではないだらうか。いくら自分達が一所懸命になつた所で……といふ教育の効果についてのある疑惑、さてはなるやうにしかならぬという軽い諦め、さういふものが、暗々の中に教育者の考へ方を支配してゐるからではないだらうか。

これこそ今の教育界に一番欠けてゐるものではないか。

（昭和四年十月号）

結果か過程か

周囲を見廻して見る。成敗に執着し、結果を偏重する心持の到る処に遍満してゐるのに今更の様に驚かされる。ある結果を作り出すに到つた精神、結果を得るまでの過程よりも、将来した結果を重んじ、これのみによつて価値の高下を定めんとする心持が、余りに濃厚で、この為には幾多の社会の不安が醸成されてゐる。これが果して健全な傾向といひ得ようか。

偉大なる文明の建設、雄揮澆瀾

たる民族の育成、それらが結果にのみ関心を持つ時代精神から生れるものか否か。この疑問に対しては各国の歴史がすでに適確明瞭な回答を与へてゐる。即ち過去に於て偉大な文化に貢献せるは、主として成敗よりも精神、結果よりも過程に重きをおいた人々、いかなる成敗や結果は全く念頭になく、精神や過程にのみ重きをおいた人々ではなかつたらうか。

我が国武士道の精神は結果よりも過程に重きをおく所にある。現代の競技精神もまた然りて勝敗よ

りも見事な試合をするのが眼目である。この精神を鼓吹し、この態度を高唱すること、これが現代社会の陰惨な氣風を一掃するに最も有効でありまた最も必要なのではないだらうか。

（昭和五年二月号）

祝・叙勲

（平成三十年四月二十九日）

☆瑞宝中綬章

教育研究功勞

菅家 惇 殿

松山市本町七一―四

（教育学部名誉教授）

☆瑞宝小綬章

教育功勞

越智 節也 殿

松山市正円寺三一―三四

（昭和四十五年卒）

☆瑞宝双光章

教育功勞

井上 弘子 殿

松山市緑町二一六―二九

（昭和三十九年卒）

放送大学入学生募集のお知らせ

放送大学では、平成三十年十月入学生を募集中です。

〔募集期間〕

平成三十年六月十五日(金)～

九月二十日(木)

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○ 放送大学の大学院を利用して、**専修免許状**の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、**特別支援学校教諭免許状**の取得が可能です。

放送大学

教養はエネルギーだ。

一科目からでも学べます

平成30年度10月入学生募集中!

(平成30年9月20日まで)

問合せ先 愛媛学習センター

TEL 089-923-8544



●インターネットで資料請求・出願できます。
放送大学 www.ouj.ac.jp

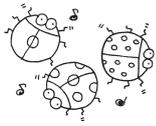
●資料請求専用フリーダイヤル
0120-864-600

○ 放送大学の科目を利用して、**司書教諭資格**の取得が可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、**教員免許更新**が可能です。

資料を無料でさし上げておきます。お気軽に愛媛学習センターまでご請求下さい。

愛媛大学ミュージアムから 特別展と昆虫展のお知らせ



昆虫展2018



のぞいて びっくり! ムシの世界

入館無料

Ehime University Museum

Designer K. Segoh, Photographer K. Kamada

■会場: 愛媛大学ミュージアム

■期間: 2018年8月4日(土)～8日(水)の5日間
10:00～17:00 (入館は16:30まで)

- 内容: 様々な昆虫標本と生体展示
- ・クイズラリー
- ・カブクローナー
- ・相談コーナー
- ・標本収蔵庫一般開放
- ・昆虫教室



4(土)・5(日) 昆虫教室のご案内 (事前予約制・無料)

午前の部 10:00～12:00 (9時30分受付開始)

午後の部 13:00～15:00 (12時30分受付開始)

※詳しい内容はミュージアムホームページをご覧ください。

愛媛大学ミュージアム

Ehime University Museum

※この展覧会は、公共交通機関の利用を推奨いたします。

入場無料

昆虫ハンター展

クイズで昆虫カードをゲットだ!

会期: 2018年5月30日(水)～7月30日(月)

会場: 愛媛大学ミュージアム 企画展示室

特別展関連イベント
期間中3回開催します!

詳しくはこちら
電話: 089(927)8293

愛媛大学ミュージアム ホームページ
www.ehime-u.ac.jp/overview/facilities/museum/

Facebook: [Facebook](https://www.facebook.com/EhimeUniversityMuseum)

愛媛大学ミュージアム
Ehime University Museum
www.ehime-u.ac.jp/ehime-u-museum/

※この展覧会は、公共交通機関の利用を推奨いたします。

昆虫展2018

平成30年8月4日(土)～8日(水)

《特別展》昆虫ハンター展

平成30年5月30日(水)～7月30日(月)



文 芸

短 歌

葉 桜



附属特別支援学校教諭

井上真佐子

(昭六二卒 特音)

半分にゆふべ裂かれし玉葱が仰向
けのまま一夜を越せり

胃に何か入れてから葉のめといふ
薬のために飲食なさむ

蜂蜜の塚かたむけてゆるゆると懺
悔のことば待つごとくある

この朝もほのかにパンを焼くには
ひしつつかの忌の日とならむ

丁寧にあ拶をかはすそのみの隣
人といふ名のとほき人

ビルひとつ解体されてさういへば
広くなりたり空の面積

正解といふものありき教室の窓よ
り見えてみし冬木立

みずからが記す略歴のおほよそは
嘘ではないが本当でもない

永久に片想ひするもののごともう
ない星のひかりがとどく

成し遂げたきことなどあるかぼん
やりと芝生のうへに灯る外灯

折針を小瓶に溜めてゆくごとし悔
しさのわが身に積もる様

たましひかなにかのやうに透明の
レインコートが吊されるなり

血の濃さといふを思ひぬ同じ血を
持てる一人を今日失ひて

晴れてゐてよかつたなどと言ひ合
へり死者は会はしむ生ある者を

あちらよりこちらへ流れくる水よ
時折白き花を泛べて

父の頭の中なる空よおほかたは曇
れど時に青く澄む日あり

子どもらの残しゆきたる参考書片
寄せて春の埃を払ふ

空を覆ひつつ咲きながら桜みな此
の世の外にはみ出してゐる

散りかかる花受けながらこの朝も
桜掃く人みな無言なり

葉桜となりし梢の向かう側さくら
の色の夕暮れが来る

俳 句

俳句雑誌「泉」平成三十年六月号
「水鏡」——十句十解——より

来し方づれづれ

河野真知子

(附属学校教職員OB)

末寺なる禪寺守りて年迎ふ

子ら去にて二人無口に雑煮膳

朗朗の地謡を背に春を舞ふ

遅き子へ引く手貸す子や山笑ふ

卒業子礼老教師ただ涙

十五針縫はれし傷や万愚節

更衣二の腕白き女学生

青春の匂ひ完熟せしトマト

夕暮れて憂ひ帯びくる鉄線化

秋日和娘より着帯すとメール

亡師の言葉木の葉を揺らす風にあり

——*——*

ソフトバレー仲間のご主人様に
手ほどきをいただいた弥生句会か
ら早や二十年。センスの無さを実
感しながらも、下手は下手なりに
細々と続けられているのは、多彩
で多才、そして明るい椿句会の句
友と結社「泉」の木下代表のお陰
です。この場を借りてただ感謝、
感謝。



絵手紙

植物と共に



田中 勝子

(昭五〇卒)

子供の頃から、植物に興味があった。亡き母の影響であろうか。毎年、梅雨時には、つぼみがばんばんに膨らんだテッポウユリを惜しげもなく切り取って、学校に持たせてくれた。ダリアやグラジオラス、ザクロの花などもあった。自然に、花々に親しんでいた。

夏休みの自由学習は、一つ覚えのように「植物採集」をした。身近な雑草を集め、新聞紙にはさんで畳の下に敷く、あのやり方である。かび臭く湿った感触がよみかえる。セリは、葉形がよく、しわのない押し花に仕上がるので、好きであった。中学生になると、数を増やして賞をもらったことがある。その時の表紙絵は、確か、モミジアオイにした。自身は、全て雑草であるが、なぜか表紙には、

華やかな花をかきたかった。図鑑で出会った、異国情緒のある赤い大きな花に心引かれた。数年後、我が家の庭に、モミジアオイが咲いて驚いた。どこで手に入れたのか、植えたのは、母であった。

意欲的に栽培を始めたのは、二十五年程前。当時、赴任した学校の校長先生は、全職員の誕生日に、自らが育てた季節の花をプレゼントしてくださった。私は、白いつぼみを無数につけた「サギムスメ」というデンドロビウム(蘭)をいただいた。開花した時の美しさ、清らかさに圧倒された。これを枯らしてはいけない、来年も咲かせたい、その思いからスタートした。その蘭は、今も健在であり、株数も増えた。今回、久しぶりに絵にかいてみた。

私は、自分で咲かせた多種多様な花の姿を、そのまま絵にしたいと思っている。従って、いわゆる「絵手紙」とは異なり、スケッチ画というべきかもしれない。

791-3120

伊予郡松前町

北黒田七三八





親鸞と英語



吉原 宏文
(昭四二卒)

私の人生は、英語に苦しめられた半生であった。もし若い頃英語ができていたら、私の夢であった仏教哲学者になっていたはずである。四年間勤めた小学校教師を辞め、その後仏門に入り長く厳しい修行をさせられてきたので、英語学習からは完全に離れていた。そして七十五歳となった今日、ようやく英語を学ぶ環境が調ってきた。広島市内の英語教室ACEに通い始めて七年になる。英語を母国語とするアメリカ人やニュージーランド人のよい先生に恵まれ、やっと英語が面白くなってきた。昨年(2017)春からは、バルト三国の一つのリトアニア出身のEmika先生に指導を仰ぐようになった。彼女は三年間イギリスのNewcastle大学に留学した後、日本に来られた。広島市に縁がありACEで私と出会った。最初、てっきりイギリス人とはばかり

思い込み失礼した。しかし、彼女がイギリスと関わりがあったというところで、私が五十年前、愛媛大学に入学して間もない頃まで文通していたイギリス人女性のJudith Priceさんのことが頻りに思われてならなくなった。実は五十年前、YMCAの紹介で私の妹・道子(現名古屋市在住)の文通相手であった。しかし、Judithさんの熱心さのあまり、妹がついていけなくなった。そこで私が妹のバトンを引き受けた。ところが、私も英語力が軟弱な上、大学の勉強も忙しくなり、しかたなく一方的に文通を止めてしまった。それから半世紀、今日英語力が少しばかり向上し、彼女のことを思い出した。しかし、当時の手紙等は処分しており、どうすることもできず、今なら続けられるのにと悔やんだ。ところが、幸運にも名古屋の妹が彼女の当時の手紙を大切に

保存していた。私は勇氣を出して、せっかくの稀な好機を逃したお詫びも書いて手紙を出した。内心返事が来なくても仕方がないと案じていた。が、奇跡的にも彼女から返事が来た。近況を知らせる七枚の写真が同封してあった。五十年経ち、二十代だった彼女も七十代のおばあさんになり、結婚されて名前もJudith Rouseさんとなり、住所も変わっていたが、知人の親切な手配で無事彼女の手に届いたとのことであった。一人娘のEmmaさん(Cambridge大学で考古学を専攻し、日本にも大変興味をもっているとか)は、八月に初孫の出産予定であったが、無事、男児Eoghan(オーエンと発音)君を出産した。Judithさんも初孫なので大変喜び、さっそく赤ちゃんの写真を送ってくれた。私の妹・道子も四人の孫のおばあさんになっていて、男性には気の付かない、女性同士の優しい気持ちや細やかな配慮から、お祝いの印として、でんでん太鼓や麻の葉模様の肌着などを送って大変喜ばれた。そして、年末にはクリスマスとニューイヤーカード、また別便でイギリスのカレンダーとウィスキーチョコプレートなどを送ってくれた。今日、妹と私の二人がかりでJudith(amazing lady)さんとの文通に挑戦している。ともあれ、私が投じた二石が色々な波紋を生じている、との

ことである。BBC放送でも日本文化の特集をしており、またノーベル文学賞のカズオ・イシグロさんの新聞の切り抜き等も送ってくれた。また、これからの文通を通して、宏文さん(私)の英語能力が高まるよう応援してあげる、とも書いてくれた。まさに、去年(2017)一年間は、私の英語学習にとって重要な転機(important threshold)となった。また、平和都市広島に生きている一人としても是非英語をマスターしたい。念願は人格を決定す、継続は力なり。

さて、私は愛媛大学に入ってからさっそくサークルのオリエンテーションで魅力を感じた仏教青年会に入会した。顧問の松本解雄先生が主催された親鸞聖人の語録である「歎異抄」の輪読会に参加した。また、先生が京都大学の学生のごろ私淑された池山栄吉先生の一道会にて、お念仏の真なることを体得された、と聞かされた。私は広島県の山奥の地に生まれ育った。そこは昔から安芸門徒として真宗信仰の篤い土地柄で、江戸時代には有名な大瀧和上など多くの学的傑僧を輩出した。私は、家庭的構造的欠陥が原因で苦しむ母の姿に接して、子どもながら無常観におそわれ、仏教に救いを求めるようになった。仏教はまさに愁眉を開くサークルであった。その後長い人生遍歴を経て、縁あって浄土真宗の僧侶となった。しかしながら、親鸞聖人の主著(magnum opus)の「教行信証」は、漢文や古文、それに難解な仏教用語で書かれており、今まで挑戦する度に跳ね返されて弱っていた。たまたま、私が長年敬愛している京都大学名誉教授の荒牧典俊先生から、鈴木大拙博士の英訳教行信証を読むように薦められ、その本を購入した。禅仏教学者としても世界的に著名な大拙博士は、アメリカ人の奥様(Bearice)の助力で、その英訳文は正確で美しい文であることを実感できた。現今、多少英語能力に自信を得た私は、聖典と英訳文とを比較対照しながら読んでおり、よく理解でき心ひかれた三つの文章を紹介したいと思えます。

「ひそかにおもんみれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり」

As I humbly reflect, Amida's Prayer for universal deliverance is beyond my understanding.

It is the great boat that crosses the ocean of impassability. Amida's Light knows no hindrance. It is the sun of transcendental wisdom(prajñā) which illumines the darkness of ignorance(avidyā).

「ゆゑに知んぬ、円融至徳の

嘉号は悪を転じて徳を成す正智、
 難信金剛の信樂は疑いを除き証
 を獲しむる真理なり」と」

Therefore, be it known that
 the Auspicious Name embody-
 ing the supreme virtue which
 knows no obstructions is the
 right transcendental knowl-
 edge and as genuine as the
 vajra (diamond) is the truth
 which makes us attain the
 realization by wiping out
 every trace of doubt we may
 have cherished.

「大無量寿經にのたまはく、今
 日世尊、諸根悦予し、姿色清淨
 にして光顔巍巍とまします、
 あまらかなる鏡の淨き影、表裏に
 暢るがごとく」

We read in the Larger Sutra
 of Eternal Life: Today we
 find joy and contentment
 revealed in every sense-organ
 of the World-honored One.
 Your expressions are clear
 and pure. Your face shines in
 dignity like a bright mirror
 in which the reflections are
 transparently manifest.

2018 (平成三十年) 二月三日 (土)

節分の日



戦後の県下教育の動向に思う



小野植元幸
 (昭二九卒)

昭和二十二年四月一日六・三
 制発足。小中学校義務となり男女
 共学。私は昭和二十一年男子クラ
 ス高等科一年より昭和二十二年中
 学二年に編入。昭和二十一年まで
 は、小学校のみ義務。卒業すると
 家の仕事や奉公。高等科は自由の
 ため、尋六でやめる者、高等科一
 年でやめる者がいて、新制中学二
 年になる時、小・高等科約四十名
 減。新制中学は、男女共学三クラ
 スであった。昭和二十四年高校再
 編となり、旧中学校、高等女学校
 が統合。旧大洲中、八幡浜商、内
 子町出身者は、地元高校に編入。
 昭和二十七年入学時は、新制大学
 制度で、男・女子師。青年師も統
 合。私の入学時は、師範学校から
 編入した者・代用教員(旧中学・
 女学校)年上の人が同級生にい

た。当時は、児童が多く、教員不
 足のため小・中学各二年部。小・
 中四年部があり、卒業すると、新
 採は僻地に大部分着任。着任する
 と、日本教員組合に加入。昭和
 三十一年になると頻繁に会合。昭
 和二十七年十一月一日全国市町村
 に教育委員会設置。昭和三十三年
 十月二十八日勤評闘争がはじま
 る。昭和三十五年県下市町村で決
 起大会があった。昭和三十五年十
 月二十七日、県下の教員が松山の
 国鉄グラウンドに約七千七百名参
 加。この反対闘争は、全国に波及
 した。内子町の小学校に約三百名
 参加。中学校長が教委に交渉する
 も「負けました。」参加者に泣い
 て報告。十二日に県議会があっせ
 んにのりだし、勤務評定書を提
 出。昭和三十三年校長は管理職と

なり脱会。郡校長会より脱会の呼
 びかけで、私は、すぐ脱会すると
 郡教員組合長が連日話しにきた。
 が反対していた人が次々脱会。一
 か月後、日教組会員約二百人。
 昭和三十五年九月十八日「愛媛
 県教育研究協議会」設立シスタ
 ト。昭和四十年程度までは、大洲、
 喜多支部の活動だったが、四十一
 年分離。他県にも日教組を脱会
 し、研究協議会を設立し、日教組
 と教育研究団体の二本立ての活動
 となり現在に至る。
 日教組愛媛支部の拠点・持田町
 の「教員組合会館」は放棄。「愛
 教研」の拠点到、退職教員と、現
 職教員の基金で設立。政治的中立
 の「研修団体」として現職の先生
 方に継承され、愛媛教育に尽力さ
 れている。設立当時の校長先生が
 心血を注がれたことを知る人も少
 なくなつた。
 昭和三十一年六月三十日「地方
 教育行政の組織および運営に関す
 る法律」制定により、人事権は県
 教委になった。

昭和四十五年「教育関係職員」
 によると小学校三百六十八校、
 中学校二百校。教員約一万三千
 人。町村合併により、児童生徒が
 減少。昭和三十年(五五体制)、
 平成の大合併時にも統合により
 減少。この十五年間で、小学校
 二〇・五%、中学校一五%。高校
 二校統合。理由は、財政難、老朽
 化、耐震化。年々児童生徒が少子
 化のため教員も減少。

平成二十八年、七千四百五十七人
 となり、平成二十九年七千三百四十六
 人。大洲、喜多郡は、平成二十八
 年現教員四百七十九人。平成
 二十九年四百六十九人となり十人
 減少。退職会員もこの十五年間で
 百五十人他界で減少。まだ統合で
 減るだろう。

教員の時間外勤務、部活、苛問
 題他。諸々あるが先輩教員の苦勞
 等。戦後の教育の動向をふりか
 えつた。

791-3351

喜多郡内子町五百木

一五四

平成30年度
支 部 長 会 報 告

1. 日 時 平成30年6月9日 13:30～15:30
2. 場 所 愛媛大学校友会館（松山市文京町3）2F サロン室
3. 日 程
- (1) 開会挨拶
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 教育学部長挨拶
 - (4) 各支部長自己紹介及び支部紹介
 - (5) 議長選出
 - (6) 議事
 - 議案1 平成29年度行事報告について
 - 議案2 平成29年度決算報告について
 - 議案3 平成29年度監査報告について
 - 議案4 平成30年度行事計画案審議
 - 議案5 平成30年度予算案審議
 - 議案6 平成30年度支部助成金案と支部活動について
 - 議案7 役員改選に関する審議
 - ① 平成30年度本部役員案について
 - ② 平成30年度本部役員・支部役員案について
 - ③ 新旧役員代表挨拶
 - 議案8 その他連絡事項について
 - ① 第9回ホームカミングデーについて
 - ② 第16回教育学部同窓会懇親会について
 - (7) 議長退席
 - (8) 感謝状贈呈
 - ① 感謝状及び記念品贈呈
 - ② 退任者挨拶
 - (9) 閉会挨拶

4. 概 要

- 今年の支部長会は、支部長21名（県内支部20名、県外岡山支部1名）と本部役員25名の計46名の参加のもと事務局からの提案議題（議案1～議案8）について協議を行い、全議案について承認を得た。
- 事務局からは、支部活動をより活性化するために「支部活動特別助成」の利用について紹介を行った。
- 今年度は、会則第8条に伴う会長・副会長・監事の改選を行い、高橋会長（再任）、副会長（1名退任、2名新任、3名再任）、監事（再任）の改選を承認した。

平成29年度 行 事 報 告

平成30年度 行 事 計 画

4. 6 (木)	平成29年度入学式	学部生 169名 院生 49名
4. 14 (金)	平成28年度会計監査	監査実施
5. 12 (金)	第1回 常任理事会	役員改選・同窓会活動・支部活動について
5. 27 (土)	第1回理事会	平成28年度行事、決算報告 平成29年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
6. 17 (土)	支部長会	平成29年度本部役員改選 平成28年度行事、決算報告 平成29年度行事計画及び予算審議
6. 17 (土)	第1回編集委員会	会報124号 校正
7. 1 (土)	同窓会報124号発行	8,300部
7. 21 (金)	支部活動支援・援助申込 締め切り	各支部に於て教育学部名で後援・賛 助できるもの
7. 28 (金)	第2回常任理事会	同窓会運営推進対策について
8. 5 (土)	第2回理事会	同窓会運営推進対策について
9. 15 (金)	第3回常任理事会	中間活動反省報告、後期諸計画、次 年度活動について
10. 26 (木)	南宇和支部活動(菊志ん落語会)	南宇和支部文化活動(菊志ん落語を中心に)
11. 11 (土)	第8回愛大ホームカミングデー	教育学部同窓会・同世話係会中心に参加
11. 30 (木)	「魅力的な話し方講座」	朝日TVアナ吉井万結氏講演(学部活動支援)
1. 6 (土)	第3回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
1. 11 (木)	第2回編集委員会	会報125号 校正
2. 1 (木)	会報125号発行	8,300部
3. 2 (金)	第4回常任理事会	平成29年度行事活動反省、次年度重 点活動目標設定について
3. 23 (金)	平成29年度卒業式	学部生 240名 院生 34名

4. 6 (金)	平成30年度入学式	学部生 169名 院生 20名
4. 13 (金)	平成29年度会計監査	監査実施
5. 11 (金)	第1回常任理事会	役員改選・同窓会活動・支部活動について
5. 26 (土)	第1回理事会	平成29年度行事、決算報告 平成30年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
6. 2 (土)	同窓会懇親会世話人会	各期代表世話人による懇親会運営について
6. 9 (土)	支部長会	平成29年度行事、決算報告 平成30年度行事計画及び予算審議 平成30年度本部役員改選
6. 12 (火)	第1回編集委員会	会報126号 校正
7. 1 (日)	同窓会報126号発行	8,000部
7. 20 (金)	支部活動支援・援助申込 締め切り	各支部に於て教育学部名で後援・賛 助できるもの
7. 27 (金)	第2回常任理事会	同窓会懇親会運営推進対策について
8. 4 (土)	第2回理事会	同窓会懇親会運営推進対策について
8. 25 (土)	第16回教育学部同窓会懇親会	松山全日空ホテル4Fダイヤモンドボール
9. 14 (金)	第3回常任理事会	懇親会反省報告、後期諸計画、次年度活 動について
10.	支部活動支援・援助	南宇和支部 爆笑僧都寄席
11. 10 (土)	第9回愛媛大学ホームカミングデー	教育学部同窓会参加 名
12.	学部サポーター制による講義	
1. 11 (金)	第2回編集委員会	会報127号 校正
1. 12 (土)	第3回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
2. 1 (金)	会報127号発行	8,000部
3. 5 (火)	第4回常任理事会	平成30年度行事活動反省、次年度重 点活動目標設定について
3. 25 (月)	平成30年度卒業式	学部生 名 院生 名

平成29年度 決 算 書

平成30年度 予 算 書

(収入の部)

(単位:円)

費 目	本年度予算	本年度収入	増 減	摘 要
1. 会 費	3,900,000	3,820,000	△ 80,000	予定入会者(169名 +22名)@20,000
2. 寄 付	200,000	334,072	134,072	寄付金等
3. 雑 収 入	2,500	1,309	△ 1,191	利息等
4. 繰 越 金	1,409,748	1,409,748	0	
計	5,512,248	5,565,129	52,881	

(収入の部)

(単位:円)

費 目	本年度予算	昨年度予算	増 減	摘 要
1. 会 費	3,780,000	3,900,000	△ 120,000	本年度入会者(169 名+20名)@20,000
2. 寄 付	250,000	200,000	50,000	寄付金等
3. 雑 収 入	1,300	2,500	△ 1,200	利息等
4. 繰 越 金	1,406,105	1,409,748	△ 3,643	
計	5,437,405	5,512,248	△ 74,843	

(支出の部)

(支出の部)

費 目	本年度予算	本年度支出	増 減	摘 要
1. 会 議 費	450,000	254,666	195,334	支部長会・理事会
2. 旅 費	550,000	338,500	211,500	支部長会・理事会
3. 印 刷 費	1,350,000	1,115,640	234,360	会報年2回
4. 通 信 費	350,000	333,402	16,598	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	100,000	0	100,000	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	80,000	10,200	69,800	PC・プリンター機器
8. 消耗品費	120,000	63,517	56,483	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支部助成費	450,000	419,700	30,300	
10. 卒業記念費	450,000	408,240	41,760	電波時計付フォトスタンド
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 支部活動支援費	250,000	65,900	184,100	芸能・文化支援
13. 学部活動支援費	150,000	30,324	119,676	学部サポーター活動支援等
14. 雑 費	120,000	68,935	51,065	学生アルバイト代、 事務手伝い謝礼等
15. 予 備 費	42,248	0	42,248	
計	5,512,248	4,159,024	1,353,224	

費 目	本年度予算	昨年度予算	増 減	摘 要
1. 会 議 費	450,000	450,000	0	支部長会・理事会
2. 旅 費	550,000	550,000	0	支部長会・理事会
3. 印 刷 費	1,350,000	1,350,000	0	会報年2回
4. 通 信 費	400,000	350,000	50,000	会報発送、連絡費
5. 給 与 費	800,000	800,000	0	
6. 備 品 費	80,000	80,000	0	
7. 消耗品費	100,000	120,000	△ 20,000	封筒、ラベル、コピー代等
8. 支部助成費	450,000	450,000	0	
9. 卒業記念費	420,000	450,000	△ 30,000	電波時計付フォトスタンド
10. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
11. 支部活動支援費	230,000	250,000	△ 20,000	芸能・文化支援
12. 学部活動支援費	150,000	150,000	0	学部サポーター活動支援等
13. 雑 費	170,000	120,000	50,000	学生アルバイト代、 事務手伝い謝礼等
14. 予 備 費	37,405	42,248	△ 4,843	
計	5,437,405	5,412,248	25,157	

※△は減額を示す

平成 30 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本	顧問	佐野 栄・奥 定一 孝		監 事	矢野 裕 司		常任幹事	阿 部 修 一
	会 長	高 橋 治 郎			相 原 孝 裕			
部	副 会 長	立 入 哉	山 下 雅 司	村 上 朋 子	菅 田 顕		渡 邊 恵 理	
	理 事	青 野 多喜夫	長 野 照 道	山 本 千鶴子	満 田 泰 三		村 上 嘉 一	
		鎌 田 サチ子	和 田 和 子	阿 部 晋	垂 水 葉 子		井 出 節 雄	
		後 藤 陽 三	辻 井 芽美子	白 石 久美子				
		森 本 久 美	松 岡 弘 子	森 川 哲 也	金 築 治 美		今 永 晴 香	
	古 鎌 幸 一	土 手 佳 代	丸 山 佑 樹					

支 部 名	支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
	川之江・新宮	松 本 健 吉	金生第一小	野 村 浩	新宮小・中	仲 公 一
伊予三島	鈴 木 恵 子	豊 岡 小	森 実 純 夫	三 島 小	原 田 尋	中之庄小
土 居	越 村 慎 治	土 居 小	毛 利 雅 彦	長 津 小	高 木 淳	関 川 小
新 居 浜	中 野 久	金 子 小	井 川 昭 二	垣 生 小	畑 野 一 恵	惣 開 小
西 条	久 門 宣	橘 小	千 羽 達 也	飯 岡 小	山 本 直 子	橘 小
東予・周桑	越 智 恵里子	丹 原 小	木 原 敏 彦	田 滝 小	曾我部 研 二	小 松 小
今 治	村 上 圭 司	乃 万 小	高 橋 隆 司	常 盤 小	別 府 健 二	国 分 小
今治・越智	渡 邊 誠 吾	岩 城 小	前 原 淳	九 和 小	高 井 剛	大 西 中
北 条	大 高 茂 範	正 岡 小	升 岡 浩	北 条 小		
松 山	矢 野 裕 司	味 生 小	井 藤 留 美	北 久 米 小	笹 本 太 三 郎	椿 中
東 温	八 木 良	重 信 中	大 野 誠 司	北 吉 井 小	藤 原 雅 彦	南 吉 井 小
伊 予	橋 本 佳 史	北 山 崎 小	松 浦 博 文	下 灘 小	山 内 望	北 山 崎 小
上 浮 穴	大 久 保 秀 司	美 川 小	段 王 繁 嘉	畑 野 川 小	川 西 潤	美 川 小
大 洲	小 川 幸 雄	平 野 小	白 石 清 美	平 小	櫛 部 昭 彦	新 谷 中
喜 多	山 田 眞 市	小 田 中	清 水 輝 昭	五 十 崎 小	山 崎 勝 弘	小 田 中
八 幡 浜	甲 野 正 人	神 山 小	脇 坂 耕 三	真 穴 中	梶 原 章 代	千 丈 小
西 宇 和	竹 上 正 也	大 久 小	上 田 徳 彦	瀬 戸 中	田 原 久 嗣	三 崎 小
西 予	井 上 健	野 村 中	片 山 文 彦	大 野ヶ原小	滝 澤 治	明 浜 中
宇 和 島	矢 野 淳 一	和 霊 小	中 村 米 貴	遊 子 小	岡 田 雅 彦	下 灘 小
北 宇 和	布 博 文	愛 治 小	高 田 徳 雄	好 藤 小	河 野 こ ず え	松 野 東 小
南 宇 和	若 松 隆 仁	僧 都 小	片 山 新 也	家 串 小	清 水 美 和	平 城 小
附 属	森 本 久 美	附 属 特 支				

県外支部	東 京	森 孝 枝	山 下 正 洋		
	京 都	河 野 直 樹			
	大 阪	神 垣 鉄 雄	本 宮 久		杉 山 容 子
	神 戸	木 原 孝 造	平 山 昇		加 登 康 智
	岡 山	内 田 二 三 夫	神 崎 順 治		

編集委員	阿部 修一	山下 雅司	菅田 顕	村上 朋子	阿部 晋	渡邊 恵理
------	-------	-------	------	-------	------	-------

学部の今 II

初夏のメイプルプロムナード



メイプルプロムナードと南加会館



表紙の写真はメイプルプロムナードの秋の紅葉の様子です。愛媛大学構内はこのように四季折々に違った景色を見ることができます。期間限定ではありますが夜間にはライトアップされ、また違った幻想的な世界を楽しむことができます。また、正門からまっすぐにグリーンプラザに伸びるグリーンプロムナードは、学内えみかキッズの園児や近隣の小学生や幼稚園児が水遊びを楽しんでいます。紅葉時にはメイプルプロムナードと違った色の世界を楽しむことができ、外部の俳句愛好者、写真家さらには一般の方々の憩いの場となっています。

